

## ◆校長先生のお話◆

今日は、校長先生が、南部小学校ができた明治時代にさかのぼって、南部小学校のことをみなさんにお話しします。

明治5年（1872年）、南部地区には、5つの小学校がつくられ、そのうちの一つ、今の門東町にあった「松岬学校」の「分校」として、明治6年に「松溪学校」という学校が、お寺の一部屋を借りて作られました。そして、2年たった明治8年、この「松溪学校」が、「松岬学校」の分校ではなく、別の一つの学校として認められスタートをしたのです。この「松溪学校」が南部小学校の始まりの姿で、「松溪学校」がスタートした5月31日を創立記念日としたそうです。

当時は、地区の子どもがみんな学校に通うことができたわけではなく、お金を納められないほどくらしに困っていたり、家の仕事をしなければならなかったりといった理由で学校に通うことができない子どももいました。松溪学校ができた最初の年は、学校に通う年齢の子どもが南部地区全体で627人いましたが、通うことができたのは130人、しかも、全員が男の子でした。女の子が、通えるようになったのは明治12年で、学校に通っていた223人のうち、女の子は40人だったそうです。

尋常小学校になった明治20年ごろ、勉強していた科目は、1・2年生では修身、国語・算術と操行、3・4年では、修身・国語・算術・唱歌・体操・操行でした。

ランドセルなどはなく、教科書や学用品を入れるのは「風呂敷」で、背中や腰に結び付けて持ち運びしました。子ども達の学校での服装は、着物に「たちつけ」というズボンをはき、「じゅばん」というはっぴのような形の服をおっていました。「はかま」をはいていいのは5年生以上と決められていたそうです。雨の日、雪の日には「みの帽子」という「わら」でできた、から傘お化けのような「みの」をまわって登下校したそうです。長靴などない時代なので、はき物は「わらじ」や「ぞうり」でした。校舎の中では、夏は裸足で過ごし、寒い季節には校内でもわら靴をはいたそうです。

ところで、明治時代の子どもたちは、どんな遊びをしていたのでしょうか。男の子は、「ギリ打ち」「コマ回し」「陣取り」「パンパイ（めんこ）」「十六伝騎」「川遊び」などの遊びを、女の子は、「ガッキ」「あやとり」「マリつき」「イチョウ」の実を使った「マンネギ」という遊びなどをしたそうです。野球もありましたが、グローブは布で作られ、ボールもわたと毛糸で手作りしたそうです。

明治時代の子ども達も皆さんと同じように、生き活きと勉強や運動や生活をしていました。便利なものがない分、作ったり、工夫したりしながら楽しく過ごしていたようです。

どうですか。今とはずいぶんちがいますね。ときおり、時間をさかのぼって昔の様子を知ることは、今の自分たちがどうなのかを見つめ、これからどうしていけばいいのかを考える大事なヒントになります。

145年もの長い間、南部小学校が続いてきたのは、子ども達を賢く元気に育てたいという地域の方々のお優しく強い思いがあったからだだと思います。そして、子ども達もそれに応えようと努力してきたからだだと思います。

今も、私たちは、地域の方々にいろいろと大切なことを教えていただいたり、安全に守っていただいたり、素晴らしい経験をさせていただいたりしています。地域の方々のその思いは今も続いているのです。

今はまだ、世界中でコロナウイルスとの戦いが続いています。日本に住む私たちもこれから先、コロナウイルス感染症にかからないよう、様々気を付けながら生活していかなくてはなりません。そういう大変な中ではありますが、いや、そういう時だからこそ、私たちはこれからもお世話になっている方々への感謝の心を忘れず、人にやさしい気持ちで接し、毎日を一生涯懸命過ごして、これまでの先輩たちに負けないくらい素晴らしい学校、南部小学校2020を作っていきましょう。



